

鹿児島県内出土の須恵器―古墳時代を中心にして―

中 村 耕 治

1. はじめに

須恵器とは古墳時代に大陸から伝わってきたもので、奈良・平安時代まで使用された、灰色・黒灰色の陶質の土器である。それまでの縄文式土器・弥生式土器・土師器等の焼成温度は700～800度であるが、須恵器は登窯を用いるため1000～1200度で焼成され、たたくと金属音がするくらいに硬く出来あがる。器種は坏・坏蓋、高坏、甗、提瓶、平瓶、横瓶、甕、壺、有蓋壺等があり豊富である。又須恵器が伝わった後には土師器の中で須恵器を模倣したものも見られるようになる。5世紀になると我が国でも畿内を中心に須恵器窯が営なまれるようになり6世紀頃からは全国的に須恵器窯が営なまれるようになる。鹿児島県においては川内市の薩摩国分寺の瓦窯である鶴峯窯の3号窯において須恵器も焼かれたようであるが、須恵器の専用窯は確認されなかった。しかしながら極く最近、伊作郡菱刈町において須恵器窯が5基発見され話題をよんでいる。このように窯が発見されることにより、須恵器の生産技術のみならず、時間的な問題、及び広がりなども次第に明らかにされることと思われる。

ところで、今までに鹿児島県内では須恵器の確認されている遺跡は約180箇所もある。その中で古墳時代(5～7世紀)に入るとと思われるものが約30箇所である。しかしながら、今まで各遺跡ごとの考察はなされているが、全体的な問題としてはとらえられて来なかった。そこで、県内における須恵器の集成を、月例会に参加している者達で試みることにした。その手ははじめに、古墳時代を中心とした須恵器をひろい集めて紹介し、今後の足がかりにしたいと思う。

2. 須恵器の分布状況と現状

現在までの段階では古墳時代の須恵器が出土した遺跡は表に示されるように27遺跡を知る。しかし、まだ確認されていない遺跡は他にも相当あるものと思われる。ことに6世紀代になると遺跡の分布も県下全域にわたるようになり、数も増加する傾向にあるので成川式土器等と伴って出土した遺跡も数多くあるものと思われる。

県内でも古いと思われる須恵器は肝付郡高山町に樽型甗、蓋、肝付郡串良町に樽型甗、甗、蓋、曾於郡大崎町に高坏形器台、日置郡吹上町に脚付有蓋壺、坏、高坏がある。これらの中には大阪府の陶巴窯と比較すると陶巴Ⅰ期のTK208号窯と類似のものがあ、畿内方面から運ばれて来たことがうかがえる。大隅半島のものは古墳及び古墳群内出土で、古墳そのものと密接な関係にあるが薩摩半島においては、古墳そのものとは関係なく生活址より出土しており、両地域の違いが現われている。

次の段階の6・7世紀に入ると遺跡は多くなり県内各地において見られる。出水郡長島町の古墳には主体部が横穴式石室のものがあるが、その古墳に金環等と共に6世紀後半の須恵器が副葬されて



第1図 鹿児島県内須恵器出土遺跡

鹿児島県内出土の須恵器 ― 古墳時代を中心にして ―

鹿児島県内須恵器出土地名表(古墳時代を主とする)

遺 跡 名	所 在 地	器 種	時 代	文 献	備 考
七 社	鹿児島市吉野町	甕	奈良, 平安	鹿児島考古8号・9号	
釘 田	鹿児島市郡元町	坏・甕	古墳(6C)		鹿大構内 成川氏と共伴
成 川	指宿郡山川町	蓋	古墳(6C)	成川遺跡	
宮 之 前	指宿市西方	坏・蓋・高坏 甕・甕	古墳(6C) 奈良(7・8C)	宮之前遺跡	
橋 牟 礼 川	指宿市十二町	蓋・坏・甕・壺	古墳 (5C・7C)	橋牟礼川遺跡	5C代のものは8層出土 7C代のものは6層出土
村原(村ノ原)	加世田市村原	甕・坏(高台付)	古墳(7C)	村原(村ノ原)遺跡	住居址内出土
入 来	日置郡吹上町	坏・蓋・高坏 提瓶	古墳(6C)	鹿児島考古11号	住居址・落ち込み内出土
宮 内	日置郡吹上町	脚付有蓋壺	古墳(5C)	吹 上	採集品(吹上高校蔵)
辻 堂 原	日置郡吹上町	坏・高坏・甕 蓋・坏	古墳(5C) 古墳(6C)	辻堂原遺跡	耳環の模倣品もある
下 田 尻	日置郡吹上町	蓋・壺	古墳(5C)	鹿児島考古14号	
塩 屋	日置郡吹上町	甕		吹上町誌	
大 原・宮 園	薩摩郡下飯村	坏・蓋・高坏	古墳(6C) 奈良(8C)	大原・宮園遺跡	
薩摩国分寺跡	川内市	壺・横瓶	奈良・平安	薩摩国分寺跡調査概報	
溝下地下式板石積石室	出水市上知識	甕・坏	古墳(6C)	県文化財調査報告書(5) 出水郷土誌	
指 江 古 墳	出水郡長島町	高坏	古墳(5C)	鹿児島県文化財調査報告書11集	昭和38年6月調査墳丘 上にある
温之浦古墳	出水郡長島町		古墳		昭和41年8月調査
白金崎古墳	出水郡長島町	坏・蓋・高坏・甕 平瓶・壺・埴	古墳(6C)	鹿児島考古6号	横穴式石室
鬼 塚 古 墳	出水郡長島町	坏・蓋・高坏・甕 瓶	古墳(6C)	鹿児島考古6号	横穴式石室
長島町内採集	出水郡長島町	坏・甕	古墳(6C)		
新田ヶ丘2号墳	阿久根市脇本	高坏・甕・提瓶	古墳(6C)	脇本古墳群発掘調査報告書	脇本古墳群内・横穴式石室
萩 原	始良郡始良町	坏・蓋・甕・甕 甕・高坏・壺	古墳(5~6C)	萩原遺跡(1)(Ⅱ)	
小 瀬 戸	始良郡始良町	甕・壺・埴・瓶	平安(9C)		
小 田	始良郡隼人町	蓋	奈良(8C)	小田遺跡	住居址内出土
六月坂横穴	曾於郡志布志町	坏・蓋	古墳~奈良 (7~8C)	志布志町誌	横穴
横 瀬 古 墳	曾於郡大崎町	器台・甕	古墳(5C)		濠内出土・堅穴式石室
上小原古墳群内出土	肝付郡串良町	樽型甕・甕・蓋	古墳(5C)	大隅分布調査概報	4号墳(前方後円墳)の 近くより出土
横間地下式横穴3号	肝付郡高山町	坏	8C	遺跡地名表	蕨手刀と共伴
横間地下式横穴5号	肝付郡高山町			遺跡地名表	
横間地下式横穴6号	肝付郡高山町	高坏	8C	遺跡地名表	
横間地下式横穴8号	肝付郡高山町	有蓋短頸壺・蓋	古墳(6C)	遺跡地名表	
花牟礼(大戸原)遺跡	肝付郡高山町	坏・蓋・甕・壺・甕	古墳(6C)	花牟礼(大戸原)遺跡	須恵器の模倣品もある
高山町後田採集品	肝付郡高山町	樽型甕	古墳(5C)		高山町歴史資料館蔵
〃	肝付郡高山町	蓋	古墳(5C)		〃
〃	肝付郡高山町	坏・蓋	古墳(5C)		〃
千 束	肝付郡根占町	高坏	古墳(6C)	根占郷土誌	
西 ノ 平	川内市隈之城	蓋	古墳(5C)	きりしまだより第3号	
春村板石積石室周辺	大口市山野小水原	高坏・坏・蓋	古墳(6~7C)	県文化財調査報告書	
大田板石積石室周辺	大口市大田横手町	甕? 坏	古墳	(5)	
亀 甲 土 墳 墓	国分市府中町亀甲	坏・甕・平瓶	奈良(8C)	県文化財調査報告書(4)	三累環頭大刀等と共伴

いる。又、この時期になると、いわゆる成川式土器に伴って出土する須恵器が多くなる。この点はいち早く、大正時代に京都大学の浜田耕作氏により「また、この種類の土器と交って極く少量の鼠色の堅い陶質の土器、即ち祝部土器の破片が混在していることは頗る注意すべき事実である。」^①とされている。この中のこの種類の土器とは成川式土器のことであり、又、祝部土器とは須恵器のことである。すなわち、当時（大正時代）より、成川式土器と須恵器の共存関係が指摘され問題提起がなされているのであるが、近年の調査によりようやく、その問題点が解明された。例えば、鹿児島大学構内の釘田遺跡^②、日置郡吹上町の入来遺跡^③、肝付郡根占町の千束遺跡^④、薩摩郡下飯村の大原宮園遺跡等において、成川式土器と6世紀代の須恵器が共存している事実が判明されたことである。それと同時に6世紀代の須恵器が各地に見られることがわかった。しかしながら、その大半は海岸線の近くであり、内陸部においては大口市に見られるくらいで少ないようである。

奈良、平安時代になると、出土例も一段と増加し、広範囲になって来る。しかしながら、偶発的な発見が多く共存遺物が明確でなかったり、調査による発見でも小破片であったりしてその実態は容易には判明出来得ない状態である。ところが、極く最近、伊佐郡菱刈町内において、須恵器窯が発見された。これは久しく待ち望まれていた事であり、この窯の調査により明らかにされる事実は少なからずあると思われる。奈良時代以降の須恵器に関しては、今後の資料収集、分析を必要としており、月例会の研究課題としておきたい。

3. 各遺跡の須恵器

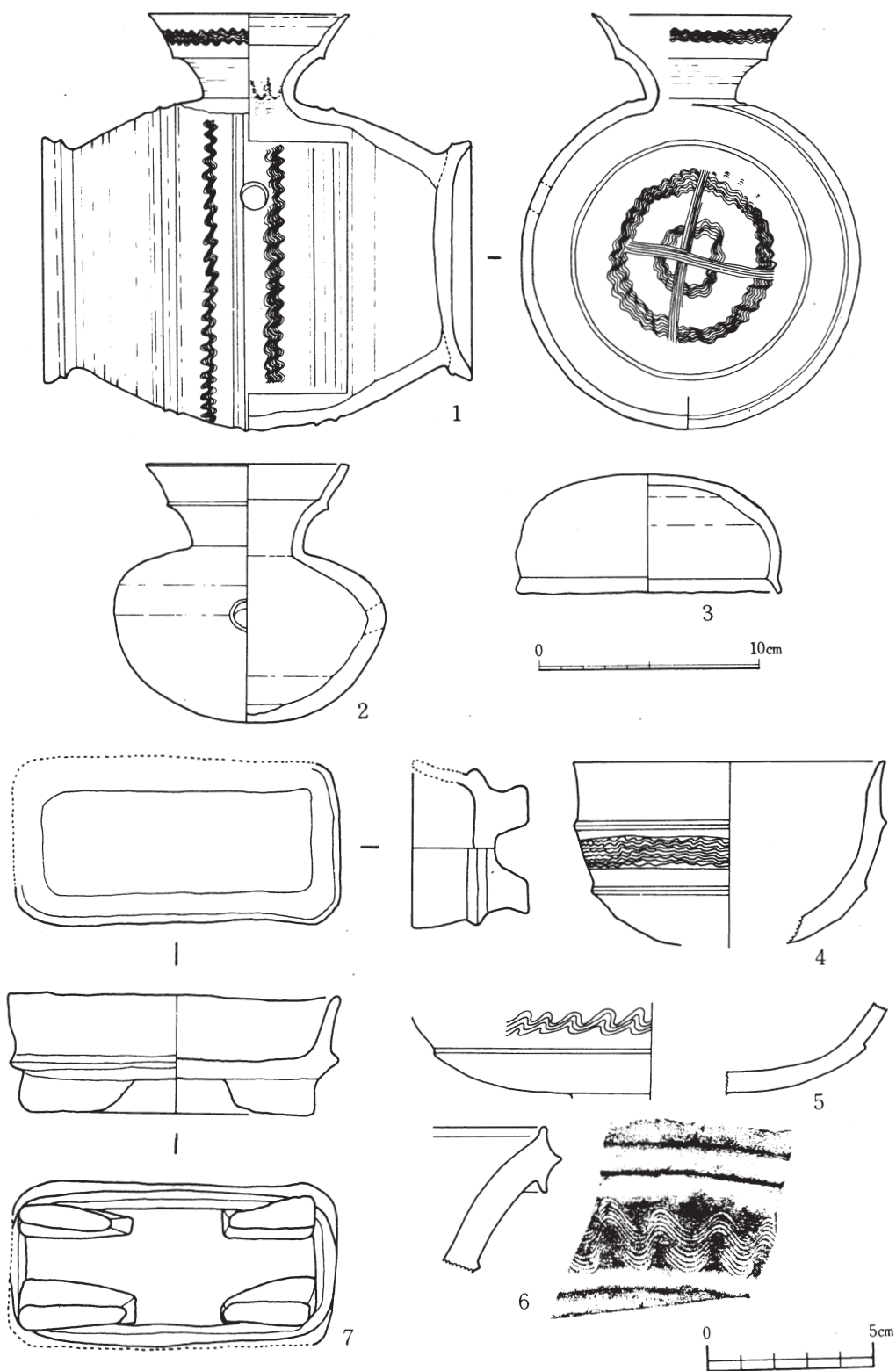
1. 上小原古墳群内出土須恵器（第2図1～3）^⑤

上小原古墳群は肝付郡串良町上小原にあり、前方後円墳1基、円墳20基、地下式横穴4+α基が群集している。1は樽型甕と呼ばれるものである。体部がビール樽を横倒しにした形に似ている所からこの名称がつけられたものと思われる。全体的にシャープな仕上げである。又、体部の底に2次の穿孔が観察されるが何を意味するのか明確ではない。2は甕である。口縁部は1の樽型甕とよく似ている。1、2共に体部中央部の穿孔はやや上向きで竹等のような管状のものをさして注ぎ口としたものと思われる。3は蓋である。有蓋短頸壺の蓋と思われるが、1・2とは焼成、調整等の点で若干の相異が見られ、時期的にはやや下降するのではないかと考えられる。1・2は陶巴古窯址群のⅠ期の中頃にあってはまるものと思われ5世紀後半頃のものと思われる^⑥。3は蓋であるが、1・2に比べると、焼成、色調が異なるものであり、時間的にやや新しく、6世紀代まで下降するように思われる。この点については今後の須恵器の伝播等についての研究を必要とするものである。

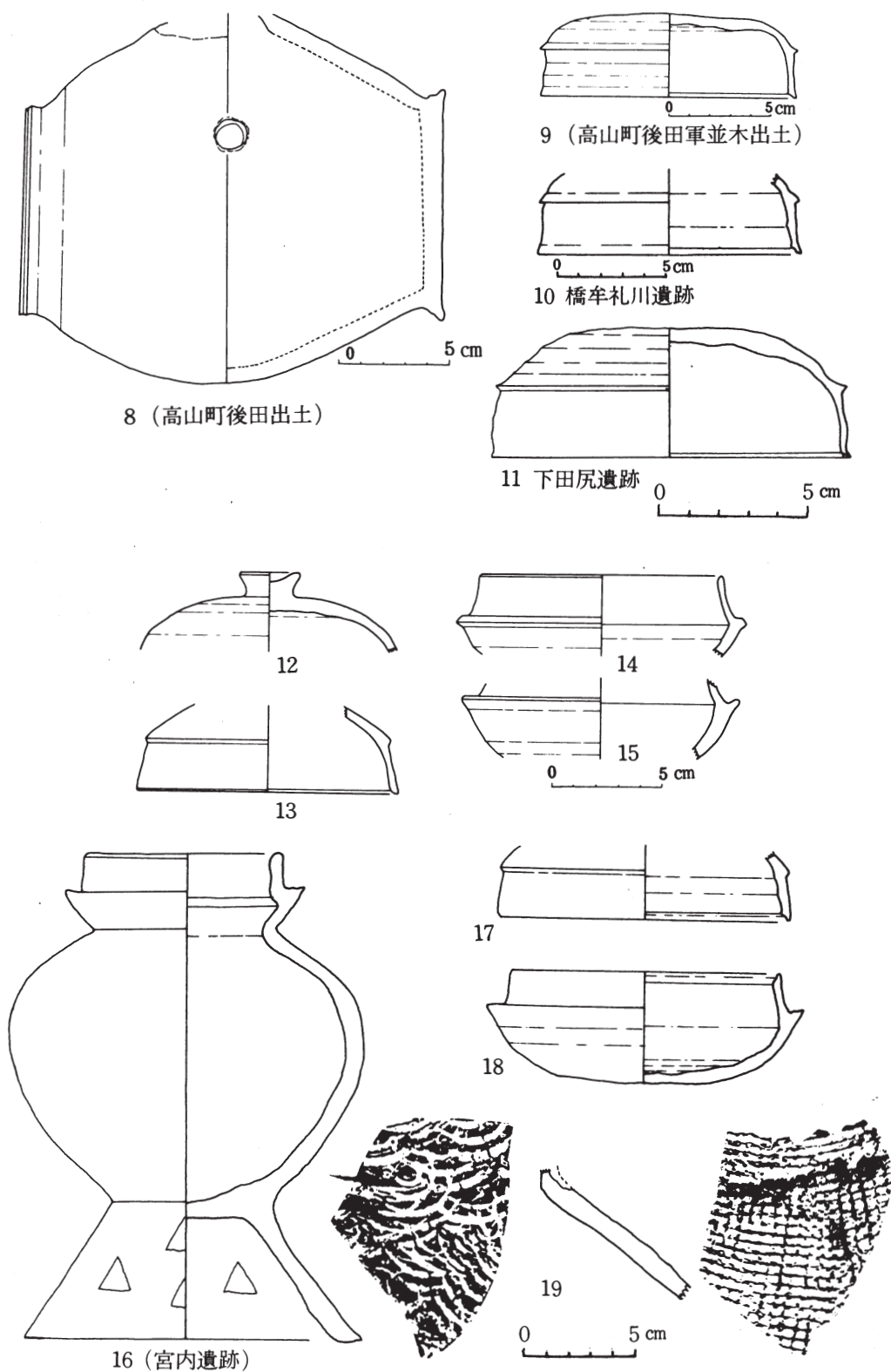
2. 辻堂原遺跡（第2図4～7、第4図20・21）^⑦

辻堂原遺跡は古墳時代の住居址が104基、溝状遺構が11本検出され、多量の土器が出土した遺跡である。この遺跡から須恵器は15点出土している。その中で古式須恵器は、無蓋高坏：2、甕：9の11点であるが、2点は住居址内、1点は溝状遺構内、他は表土層よりの出土である。これら古式須恵器は大阪府陶巴古窯址群のⅠ期に比定出来るものである。又、須恵器ではないが、耳環を模倣したと思われるものも住居址内より出土している。（第2図7）他に20・21のような坏・蓋が出土

鹿児島県内出土の須恵器 — 古代時代を中心にして —



第2図 鹿児島県内出土須恵器(1)(1～3上小原古墳群)(4～7辻堂原遺跡)



第3図 鹿児島県内出土須恵器(2) 12~15(高山町後田採集) 17~19(萩原遺跡)

しているが、これは6世紀前半のものと考えられる。

3. 橋牟礼川遺跡(第3図10・第8図61)⁽⁸⁾

橋牟礼川遺跡は、国指定史跡橋牟礼川遺物包含地の隣接地である。この遺跡からは5世紀～8世紀にかけての須恵器が出土している。10は天井部と口縁部との境界は鋭い稜をなし、口縁部はやや外びらきで長い。古式須恵器と思われる。61はつまみの頂上部がやや尖り、宝珠形つまみのおもかけを残し、内面のかえりが消失している蓋で、8世紀から9世紀のものと思われる。

4. 下田尻遺跡(第3図11)⁽⁹⁾

下田尻遺跡は辻堂原遺跡の隣接地で11は表面採集されたもので、天井部はヘラ削りの痕跡が認められ、口縁部は長く、端部は外方へはねて鋭くおさめてある。古代須恵器と思われる。

5. 高山町後田における採集須恵器(第3図8・9 12～15)

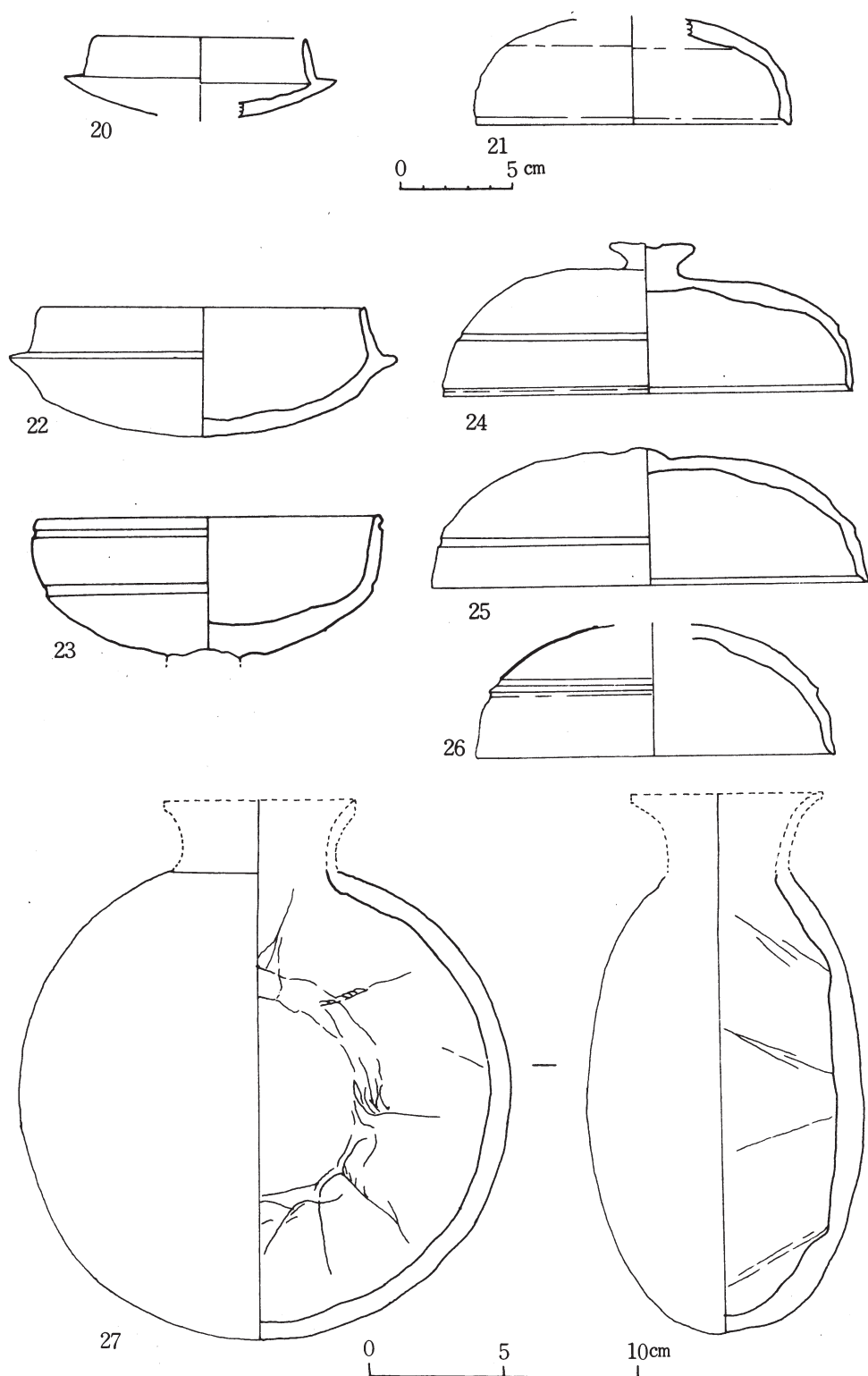
肝付郡高山町後田においては以前より樽型甕の出土が知られていたが、先年高山町立歴史民俗資料館が造られた折、高山町の文化財審議委員長である北園博氏により高山町に多数の遺物が寄贈された。その中に樽型甕を含め須恵器が数点見られた。ここに紹介する遺物は歴史資料館の寒水辰美館長の御好意により筆者が実測をし紹介することを許されたものである。8・9・12～15は同じ後田地区における出土であるが、その出土地はそれぞれ違う所である。8は樽型甕で口縁部が欠損しているが体部は全部残っている。体部中央径は17cm、両端径は9.5cm、10cmで中央部に最大径があるいわゆるビール樽を横にした形をなす。体部中央に上外方から下内方へ円孔を穿ってある。陶巴Ⅰ期と思われる。9は蓋で口縁径12.5cm、器高4.1cmを測る。天井部はヘラ削りで平らに近く仕上げている。天井部と口縁部の境界は鋭く突出した稜をなす。口縁部は2.3cmと長く、わずかに外反する。端部内面はわずかに凹線をなしている。陶巴Ⅰ期と思われる。12～15は同じ所から出したもので、12・13は蓋である。12は有蓋高坏の蓋と思われる。天井部中央に中くぼみのつまみがつく。13は口縁径11.7cmを測る。天井部と口縁部の境界は突出した稜をなす。口縁部は長く外反する。14・15は坏である。14は口縁径11cmを測る。立ちあがりは内傾しており口縁端部は丸くおさめる。受け部は短く、削り取ったような痕跡を残す。15は立ちあがりが内傾し、受け部は外上方へのび端部は丸くおさめる。12～15は陶巴Ⅰ期末頃と思われる。

6. 宮内遺跡(第3図16)⁽¹⁰⁾

宮内遺跡は昭和43年に吹上高校の社会研究部の生徒により発見された遺跡で、16の脚付有蓋壺もその時採集されたものである。5世紀代のものであろう。

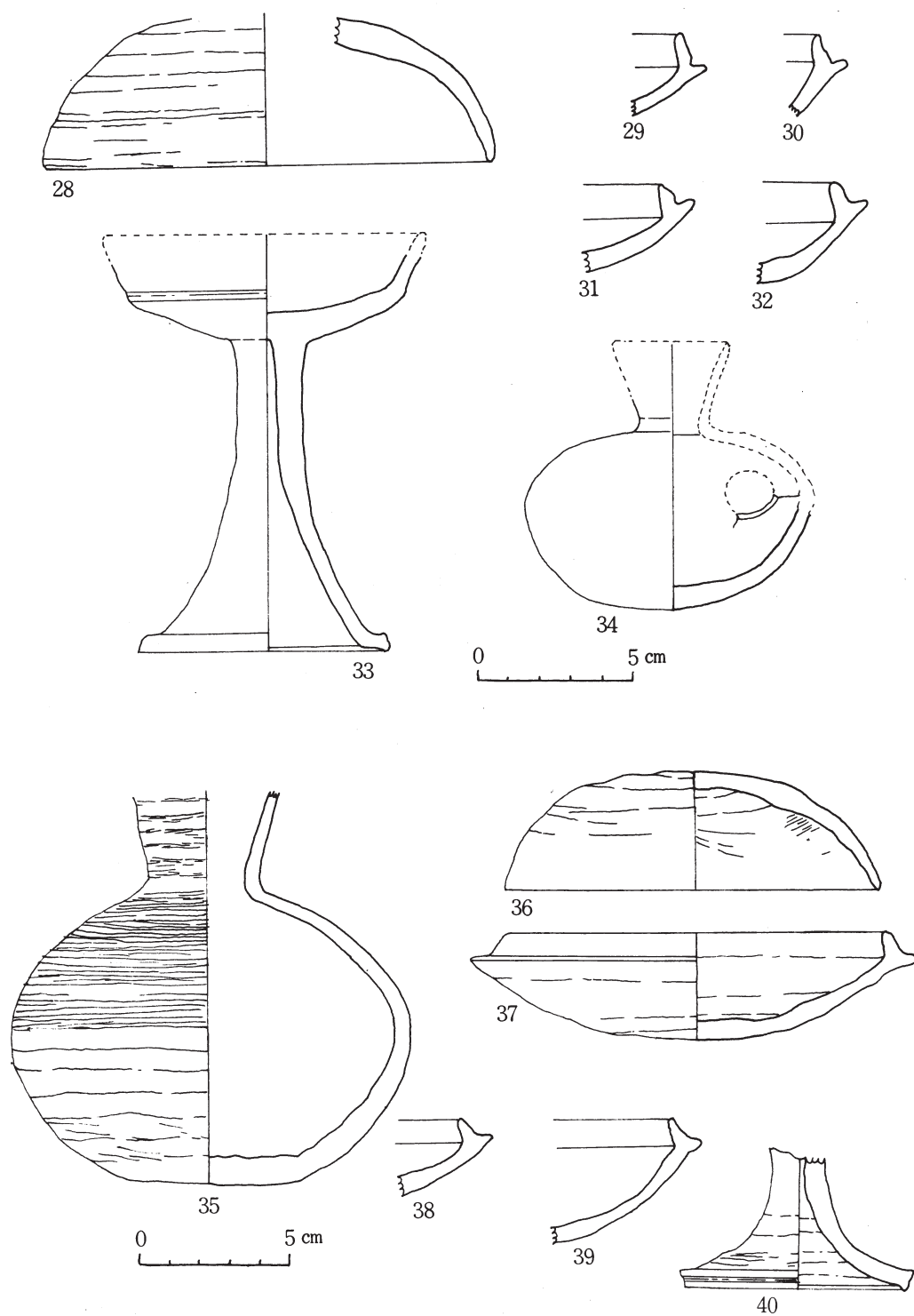
7. 萩原遺跡(第3図17～19)⁽¹¹⁾

萩原遺跡は4次にわたって調査された遺跡であるが、共に相当量の須恵器が出土している。ここでは4次調査のものについて記す。4次調査においては約170点の須恵器が出土しているが、2時期に分けられる。17は蓋で口縁部はやや外傾して下る。天井部と口縁部の境界は突出して稜をなす。18は坏で口縁部はやや内傾し端部内面は浅い凹線をなす。受部はわずかに上方へのび、端部は鋭い。底部はヘラ削りで平らに近くおさめる。底部内面の中央に同心円叩き文が認められる。19は甕の肩部である。外面は格子目叩き文、内面は同心円叩き文が施される。17～19は陶巴Ⅰ期末頃と思われる。



第4図 鹿児島県内出土須恵器(3)(20・21辻堂原遺跡)(22~27入来遺跡)

鹿児島県内出土の須恵器 ― 古墳時代を中心にして ―



第5図 鹿児島県内出土須恵器(4)(28~34白金崎古墳)(35~40鬼塚古墳)

る。

8. 入来遺跡(第4図22~27)⁽¹²⁾

入来遺跡は弥生中期から古墳時代にかけての集落のある遺跡である。この遺跡からは住居址及び落ち込みより須恵器が数点出土している。22は8号住居址出土の坏, 口縁径12cm, 器高5cmを測り底部はやや丸味をおびる。23は落ち込みより出土した高坏の坏部, 24~27は6号住居址出土, 24は有蓋高坏の蓋と思われる。口縁径15cm, 器高5.5cmを測る。天井部の中央に中くぼみのつまみを有する。天井部と口縁の境界には沈線を廻らす。25は口縁径16cm, 器高5cmを測る蓋で, 天井部と口縁部の境界には沈線を廻らす。26は口縁径13cmの蓋で天井部と口縁部の境界にはわずかに突出した稜を有する。27は提瓶であるが, 口縁部が欠損している。体部は径18cmのほぼ円形に近い。又体部の肩には耳はついていない。これらは6世紀中頃と思われる。又成川式土器と共伴関係にあるもので成川式土器の年代を考える上で貴重な資料となった。

9. 白金崎古墳(第5図28~34)⁽¹³⁾

白金崎古墳は小浜崎古墳群中にあり, 横穴式石室を主体部とする積石塚である。副葬品は鉄器, 金銅製品, 玉類, 金環・銀環等豊富である。又, 須恵器も19点出土している。28は蓋, 天井部はヘラ削りでやや丸味をおびている。29~32は坏の破片である。33は長脚の高坏, 34は平瓶であるが, 胴部中央に2cmの穿孔の痕跡が見られ, 甕状を呈する。白金崎古墳より出土した須恵器は6世紀後半から後半にかけてのものと思われる。

10. 鬼塚古墳(第5図35~40)⁽¹⁴⁾

鬼塚古墳は白金崎古墳と同じ小浜崎古墳群中にあり, 横穴式石室を主体部とする。副葬品は鉄器玉類, 金環, 銀環と共に須恵器が6点見られる。35は瓶で底部に「キ」のヘラ記号が見られる。36は蓋。口縁径12.5cm, 器高4cmを測る。天井部はヘラ削りでやや丸味をおびる。37~39は坏, 37は口縁径12.5cm, 器高3.5cmを測る。坏はいずれも立ちあがり内傾し短い。40は高坏の脚部である。鬼塚古墳出土の須恵器は6世紀後半のものと思われる。

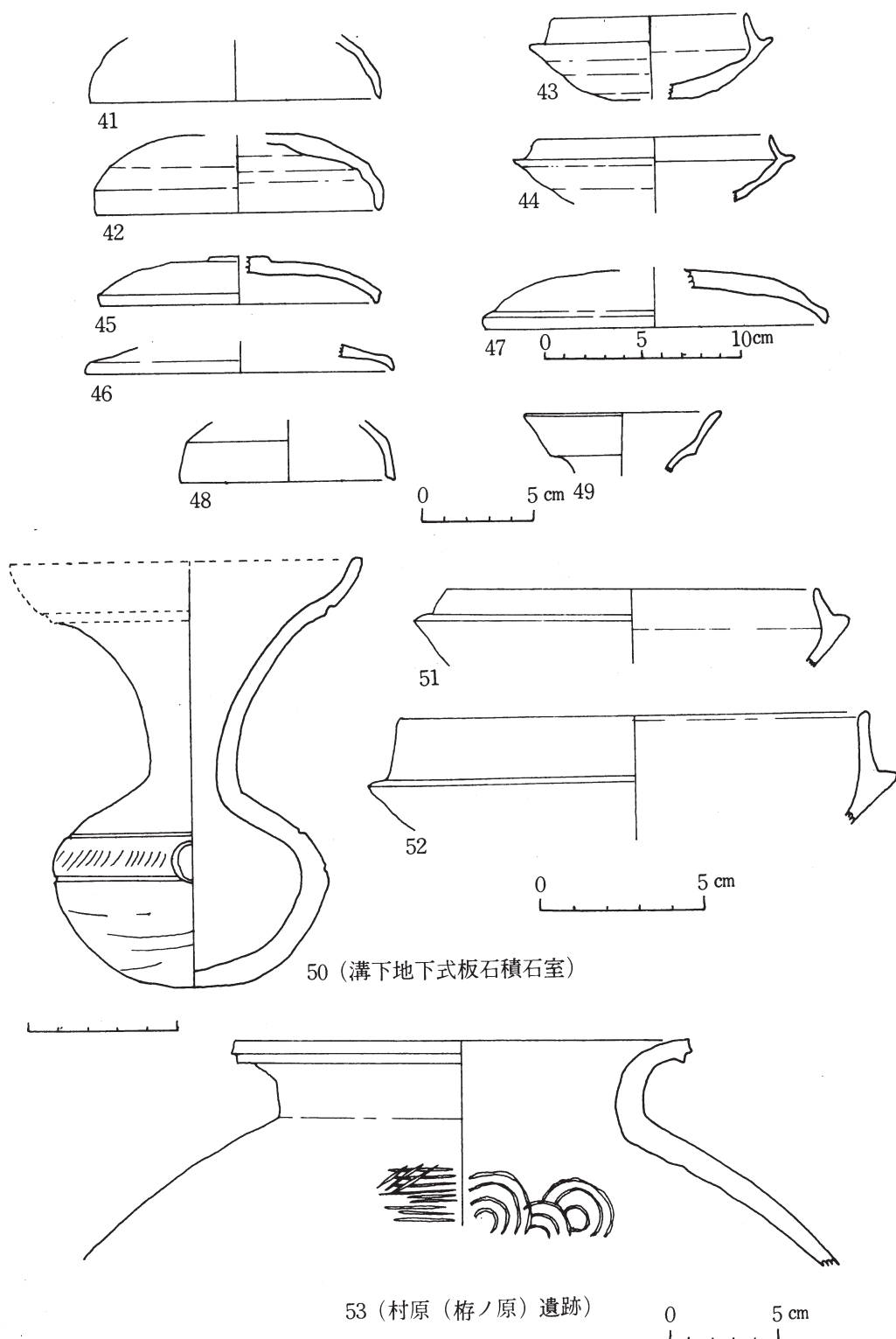
11. 大原・宮園遺跡(第6図41~47)⁽¹⁵⁾

大原・宮園遺跡においては, 坏・蓋・壺・高坏・甕等の須恵器が出している。これらは2つの時期に分けられるようである。41・42は蓋, 天井部はヘラ削りで体部との境界にわずかな段を有する。43・44は坏, 立ちあがり内傾して短い。41~44は6世紀代のものと思われる。45~47は蓋, 45は天井部中央にわずかにつまみの痕跡を残す。蓋はいずれも器高は低く扁平で, 口縁内側にかえりは見られない。8~9世紀のものと思われる。

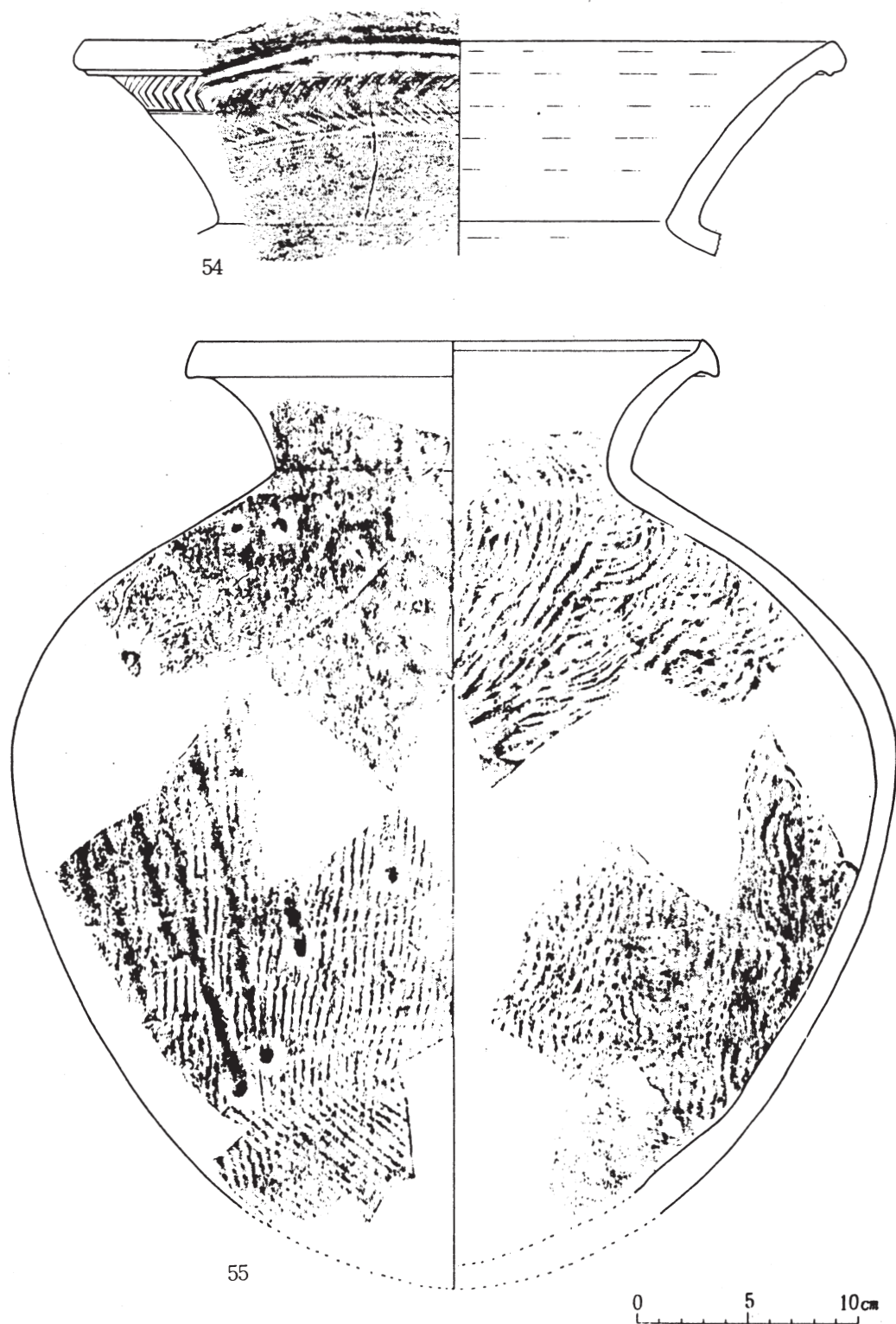
12. 花牟礼(大戸原)遺跡(第6図48・49)⁽¹⁶⁾

花牟礼(大戸原)遺跡は国指定の塚崎古墳群の近接地にある遺跡で古墳時代の集落址である。この遺跡からは多くの須恵器が出土している。48は蓋, 天井部と口縁部の境界には稜が見られる。口縁端部はやや内湾している。49は甕の口縁部と思われるもので, 口縁径9cmを測る。頸部と口縁部の境界には段を有し, シャープな稜線が認められる。これらは6世紀代のものと思われる。

鹿児島県内出土の須恵器 — 古墳時代を中心にして —

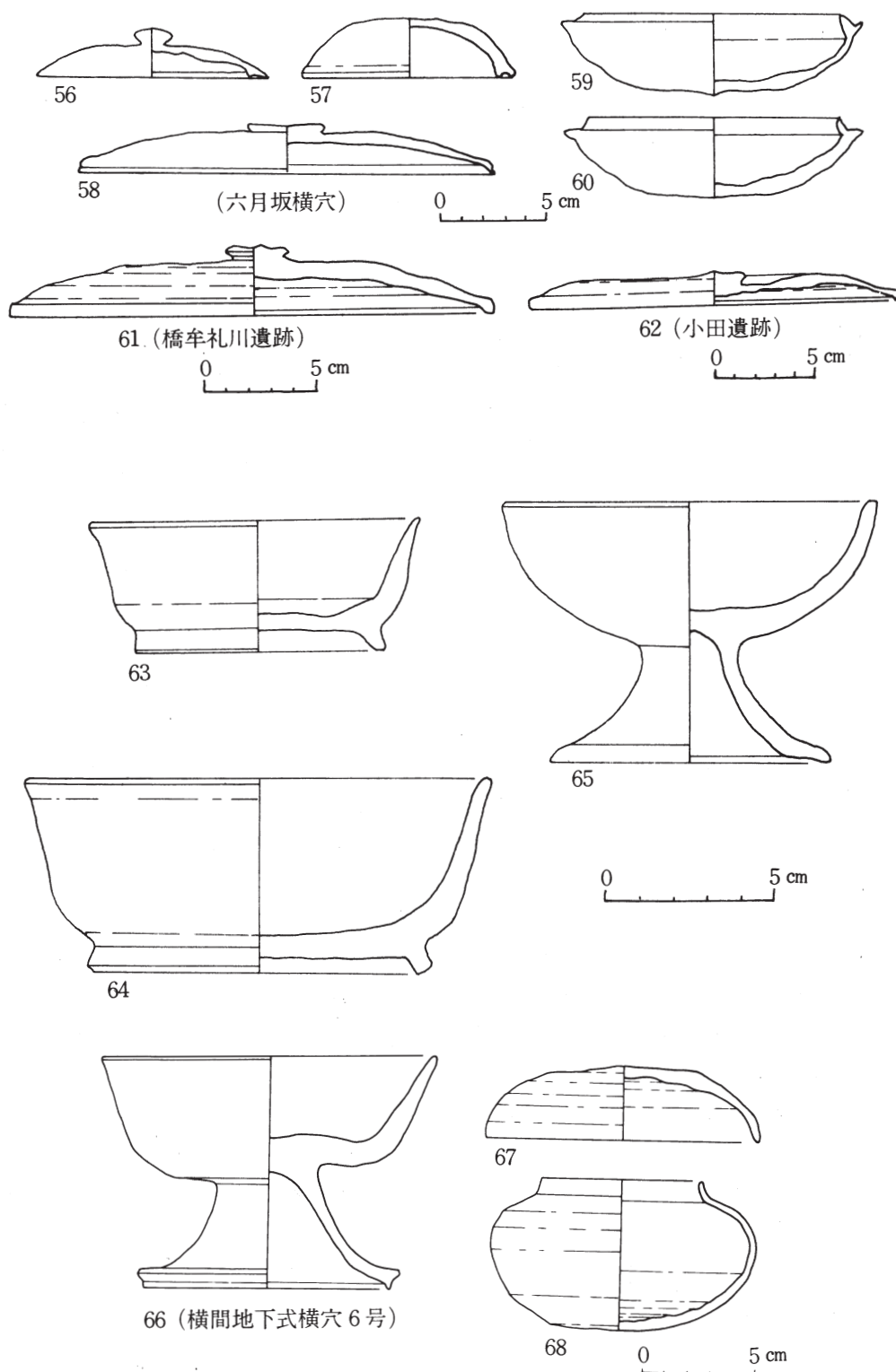


第6図 鹿児島県内出土須恵器(5)(41~47大原・宮園遺跡)(48・49花牟礼(大戸原)遺跡)(51・52宮之前遺跡)



第7図 鹿児島県内出土須恵器(6)(54・55宮ノ前遺跡)

鹿児島県内出土の須恵器 — 古墳時代を中心にして —



第8図 鹿児島県内出土須恵器(7)(56~60六月坂横穴)(63~65宮之前遺跡)
(67・68横間地下式横穴8号)

13. 溝下地下式板石積石室(第6図50)⁽¹⁷⁾

溝下地下式板石積石室群は、畑地盤下げの際に数基の石室が発見され、その時に短甲や鉄器等と共に須恵器片や甕が出土している。50はその時の甕である。頸部は細く口頸部はラッパ状にひらく。体部は口縁部に比して小さい。体部中央に穿孔があり、その上と下に沈線をめぐらし、その沈線間に櫛描き列点文を施してある。6世紀のものと思われる。

14. 村原(梶ノ原)遺跡(第6図53)⁽¹⁸⁾

村原(梶ノ原)遺跡は縄文時代早期、古墳時代、中世(山城)の複合した遺跡である。須恵器は住居址内より壺、甕、坏等が出土している。53は1号住居址より出土した甕で、外面には平行叩き文、内面は青海波叩き文が見られる。7世紀代のものと思われる。

15. 宮之前遺跡(第6図51・52, 第7図54・55, 第8図63~65)⁽¹⁹⁾

宮之前遺跡は古墳時代から奈良時代にかけての遺跡で、古墳時代の住居址8基が確認されている。この遺跡からは甕、壺、坏、蓋、甕等多くの須恵器が出土している。51・52は坏、51は立ちあがりが高く、内傾している。52の立ちあがりはやや長く、傾きもさほどではない。6世紀代のものと思われるが、52の方が先行するであろう。54・55は甕、54は頸部にヘラによる沈線を「く」字状に連続して施す。55は外面は平行叩き文、内面は青海波叩き文が認められる。7世紀代のものと思われるが54が先行する。63・64は高台のある坏である。体部から口縁部にかけてほぼ直線的に外反し、高台は高くなく外方へふんばるものである。8世紀代と思われる。65は高坏である。

16. 六月坂横穴(第8図56~60)⁽²⁰⁾

六月坂横穴は県内では珍しい横穴古墳であるが、出土した遺物は現在志布志高校に保管されている。56~58は蓋。56は天井部に宝珠つまみを有し、内面のかえりが見られる。57は内面のかえりが見られる。58はやや大きめである。天井部に扁平なつまみを有するもので、内面のかえりは見られない。59・60は坏。立ちあがりが高く、内傾も著しい。56, 57, 59, 60は7世紀代、58は8~9世紀代と考えられる。

17. 小田遺跡(第8図62)⁽²¹⁾

小田遺跡は弥生時代、古墳時代、奈良時代の住居址が検出された遺跡であるが、62は住居址内より出土した蓋である。口縁径18.1cmを測る。天井部中央にはわずかに宝珠つまみのおもかけを残したつまみがつく。口縁部は若干内行し、端部は断面三角形を呈する。8~9世紀代と思われる。

18. 横間地下式横穴(第8図66~68)

横間地下式横穴群は高塚墳と共存するものである。鹿児島県の地下式横穴の中では副葬品が豊富で須恵器が副葬されているのもここだけである。又蕨手刀も見られ、地下式横穴の下限が8世紀まで下降することが知られたことでも著名である。ここに紹介する須恵器は高山高校に保管されているものであるが、最近町立歴史民俗資料館に寄託されたもので、館長の好意で筆者が実測、紹介を許されたものである。66は地下式横穴6号より出土したもので、もう一個高坏がある。8世紀代と思われる。67, 68はセットと考えられる。蓋と有蓋短頸壺である。6世紀代と思われる。

鹿児島県内出土の須恵器 ― 古墳時代を中心にして ―

4. おわりに

鹿児島県における須恵器の研究は最近その一步をふみだした所である。その意味でも今度の拙稿も資料紹介の域を脱し得ない。月例会という勉強会のグループで始めた資料収集、研究もまだ軌道に乗りえない現状であり、今後各地よりいろんな資料が現われて来るものと思われる。

今後は個々の須恵器の問題ばかりではなく、流通、伝播に関する問題、貴重品としての伝世の可能性の問題、そして須恵器製作に関する問題等、数多くの課題を合わせて考えてゆく必要があろう。又、最近発見された菱刈町の須恵器窯の存在は注目され、今後の研究に光明を見出すものである。

今回紹介した資料の他にも大口市の春村・大田地下式板石積石室周辺、国分市向花の土壇墓等にも須恵器が出土しているようである。今後の課題としたい。

最後に資料を心よく提供して下された高山町歴史民俗資料館の寒水辰美館長、御指導・助言をして下された河口貞徳先生、戸崎勝洋氏、池畑耕一氏、本田道輝氏、月例会の諸氏にはお世話になりました。末筆ながら感謝の意を表したいと思います。

参考文献

- ① 浜田耕作「薩摩国指宿郡指宿村土器包含層調査報告」大正10年
- ② 河口貞徳「入来遺跡」鹿児島考古11号 昭和51年
- ③ 河口貞徳「千束遺跡」根占郷土誌 昭和49年
- ④ 河口、本蔵、新東、青崎、弥栄「大原・宮園遺跡」下甕村教育委員会 昭和49年
- ⑤ 立神次郎・中村耕治「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」鹿児島県教育委員会 昭和 年
- ⑥ 田辺昭三「陶巴古窯址群Ⅰ」平安学園考古学クラブ 昭和42年
- ⑦ 池畑耕一、弥栄久志「辻堂原遺跡」吹上町教育委員会 昭和52年
- ⑧ 弥栄久志、中島哲郎、井ノ上秀文「橋牟礼川遺跡」指宿市教育委員会 昭和55年
- ⑨ 本田道輝、有元彰順「下田尻遺跡」鹿児島考古14号 昭和55年
- ⑩ 宮田道照「宮内遺跡」ふきあげ7号 昭和44年
- ⑪ 平田信芳・青崎和憲・中村耕治「萩原遺跡(Ⅱ)」始良町教育委員会 昭和55年
- ⑫ ②と同じ
- ⑬ 池水寛治「鹿児島県長島町小浜崎古墳群Ⅱ)(白金崎古墳)」鹿児島考古6号 昭和47年
- ⑭ 池水寛治「鹿児島県長島町小浜崎古墳群Ⅱ)(鬼塚古墳)」鹿児島考古6号 昭和47年
- ⑮ ④と同じ
- ⑯ 出口浩・繁昌正幸「花牟礼(大戸原)遺跡」高山町教育委員会 昭和56年
- ⑰ 池水寛治「溝下古墳群」出水郷土誌 昭和43年
- ⑱ 新東晃一・牛之浜修・中島哲郎「村原(梶ノ原)遺跡」加世田市教育委員会 昭和52年
- ⑲ 弥栄久志・成尾英仁・中島哲郎「宮之前遺跡」指宿市教育委員会 昭和56年
- ⑳ 上村俊雄「飯盛山古墳その他」志布志町誌 昭和47年
- ㉑ 青崎和憲・日高孝治「小田遺跡」鹿児島県住宅供給公社 昭和56年